

二年学年だより

No. 2

5月号

令和8年5月1日

201 金子晃大・武藤知子

「新境地を楽しむ」

この学校に赴任して1年が経ち、2年生のみなさんと同様に松山中央高校2年目を迎えました。私は、小学生の頃にサッカーを始め、かれこれ20年以上サッカーに携わってきました。教員になってからは指導者として、サッカーというスポーツを勉強し、どうすれば部員の成長につなげられるか考え続けてきました。そんな私は、本校に赴任してホッケー部の顧問となりました。ホッケーという競技について知っていることはほとんどない状態でしたが、実際にホッケーを教えることになり、サッカーとの共通点が意外にも多いことを知りました。プレーする人数が11人であることやそのポジション、戦術など、多くの点でサッカーに似たところがあります。技術的なことを教えてあげられない歯がゆさはありつつも、自分なりに伝えられることを探しながら、部員と関わってきました。20数年続けてきたサッカーから離れ、新しい競技に挑戦することになり、不安や戸惑いはありましたが、それよりも今まで知らなかった世界を知ることができる喜びや楽しさの方がはるかに大きく、大人になっても新たな学びがあることを実感できた1年間でした。また、サッカーを通して培ったことが全く通用しないというわけではなく、少し見方や考え方を変えればホッケーにも応用することができ、同じスポーツという枠組みの中で、いかに自分の持っている力を発揮できるか考えることにも面白さを感じました。

2年生になったみなさんは、新しいコース・クラスになり、人間関係や勉強内容などに不安を感じていることだと思います。そんなみなさんが、2年生という新たな境地を楽しむために私なりに大切にしていることをお伝えしたいと思います。それは、完璧を求めないということです。新しい友達の関係や新しい学習内容などに対して、100点を目指して頑張ろうとするとどうしても分からないことやできないことが目立ってしまいます。今までとは違う新たなことに挑戦するということは、当然自分の知らないことやできないことをするということです。「できない自分」を受け入れつつ、いわゆる伸びしろがあることを幸せに感じられるようになると新境地を楽しめる自分が待っているはずです。

(201 担任 金子晃大)

「名将の言葉」

新年度が始まり、みなさんと過ごす最初の1か月が過ぎようとしています。高校2年生の生活にも少しずつリズムができてきた頃でしょうか。今年度から2年生のみなさんを担当することになり、授業やホームルームでみなさんの姿を見ながら、「これからどんな成長を見せてくれるのだろう」と楽しみにしています。

今のみなさんに伝えたいのは、「挑戦し続けることの大切さ」です。私の“推し”はプロ野球の阪神タイガースなのですが、歴代監督のインタビューや著書の言葉からも、色々と学ぶべきことがあります。阪神タイガースを38年振りの日本一に導いた岡田彰布前監督は、「準備がすべてや」という言葉をよく口にします。試合での勝敗は、当日の運や勢いだけで決まるものではありません。日々の練習、積み重ね、そして“できることをちゃんとやる”という姿勢が、結果につながるという考え方です。これは、みなさんの学習や生活にもそのまま当てはまります。英単語が覚えられない、長文が読めない、部活で結果がでない。そんな壁にぶつかったとき、「自分には向いていない」と思うのは簡単です。でも、岡田監督の言葉を借りれば、まずは“できること”を積み重ねることが大切です。1日5分の単語練習でもいい。授業で出てきた表現を一つ覚えるだけでもいい。小さな準備の積み重ねが、やがて大きな力になります。岡田監督はまた、「そろそろよ」という言葉でも知られています。一見すると軽い言葉のようですが、実は“当たり前のことを当たり前にする”という深い意味が込められています。宿題をする、授業を集中して聞く、わからないところをそのままにしない。こうした当たり前の積み重ねこそが、みなさんの力を確実に伸ばしていくのではないのでしょうか。

高校2年生の1年間は、自分の進路や将来を考え、可能性を広げる大切な時期です。今年、新しく挑戦したいことがある人も、去年うまくいかなかったことに再挑戦したい人もいるでしょう。失敗してもいいんです。1日5分の英単語でもいい。昨日より1問多く問題を解くでもいい。小さな積み重ねが、やがて大きな力になります。みなさんがこの1年、挑戦することを恐れず、継続する力を身に付けていくことを心から願っています。

(201 副担任 武藤知子)

